

(11)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一部に弱さがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

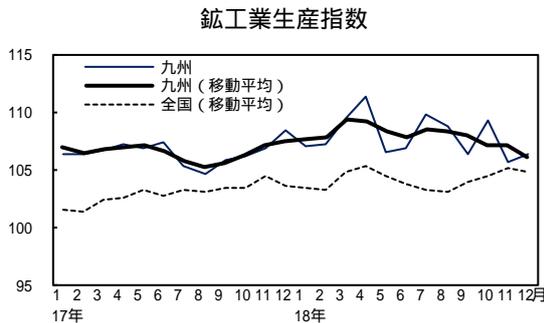
前回からの主要変更点

	前回(平成30年11月)	今回(平成31年2月)
鉱工業生産	高水準で推移	高水準で推移しているものの、一部に弱さ
住宅建設	減少	おおむね横ばい

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は高水準で推移しているものの、一部に弱さがみられる。

10 - 12 月期には、電子部品・デバイス、半導体集積回路(CCD・その他)等が減少した。輸送機械は、普通乗用車等が増加した。食料品は、減少した。汎用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置等が減少した。化学・石油石炭製品は、有機化学製品(芳香族)等が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	13.6	0.2	9.0	0.3	7.2	6.2
輸送機械	13.5	5.7	4.1	8.0	3.4	4.4
食料品	12.2	0.5	2.0	1.7	3.4	0.5
汎用・生産用・業務用機械	12.2	6.6	4.9	13.0	16.6	12.6
化学・石油石炭製品	10.0	6.5	5.1	6.4	0.1	2.4
鉱工業	100.0	0.0	1.1	2.7	3.2	0.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

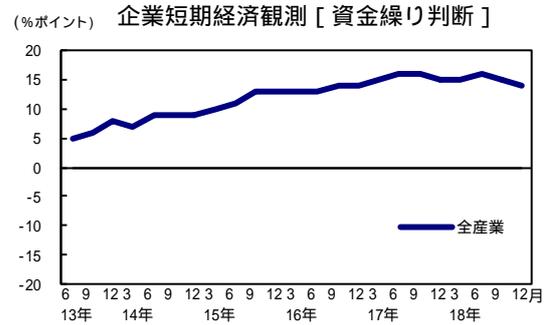
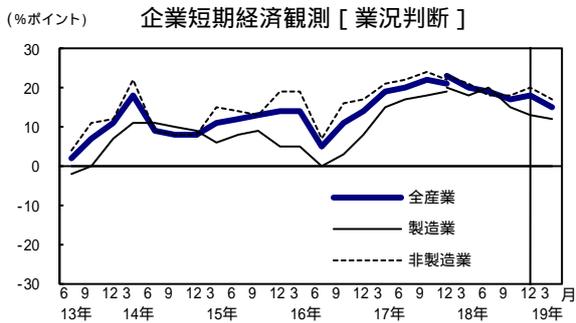
(備考) 1. 2015 年 = 100、季節調整値、九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

(11) 九州

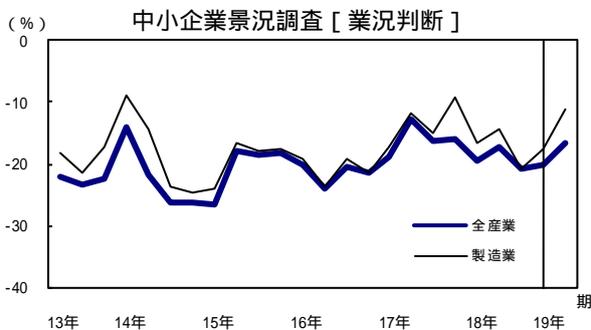
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2019年3月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

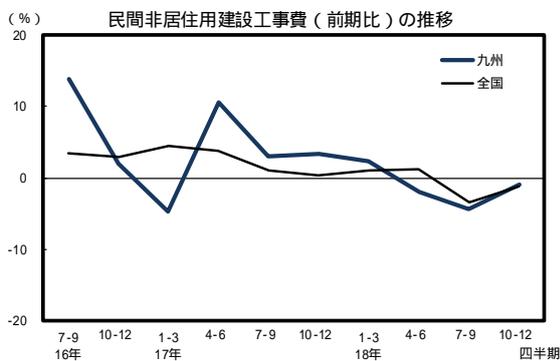


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2019年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「産業用機械設備の金属加工部品の受注状況が良くない。特に半導体関連は悪い状況である(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]
(前年度比、%)

	2017年度実績	2018年度計画
全産業	24.0	18.6 (3.0)
製造業	29.2	26.2 (5.7)
非製造業	17.9	9.1 (1.3)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。

2. リース会計対応ベース。

3. 沖縄を含む。

(備考) 1. 季節調整値。

2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.3%減、11月は同0.4%増、12月は同1.0%減となった。

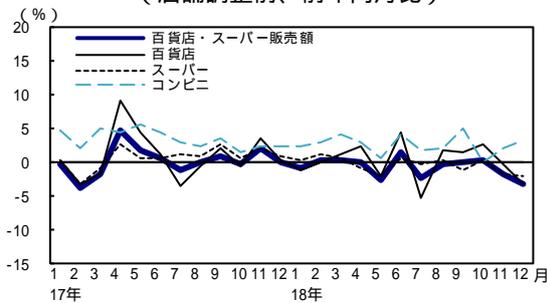
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、台風での入店客数減少等があったものの、秋冬物衣料等が引き続き好調だったことや、地元球団関連セール等により、前年を上回った。11月は、高額品等が引き続き好調だったことや、地元球団関連セールがあったものの、土日祝日が前年より1日少なかったことや、気温が高く推移した影響で冬物衣料の動きが鈍く、前年を下回った。12月は、高額品や化粧品が引き続き好調だったものの、気温が高く推移した影響で冬物衣料の動きが鈍かったことや、お歳暮ギフトの動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。スーパーは、10-12月期は、化粧品に動きがみられたものの、気温が高く推移した影響等により前年を下回った。

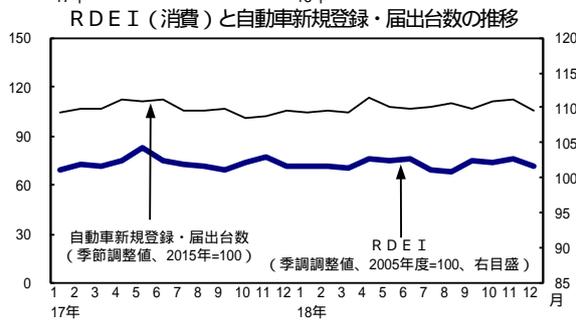
景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「ここ数か月全体的な数値が悪い。青果や日配品、特に暖冬の影響でおでんや鍋材料の売上が悪く、期間が長引いていることもあり、全体に影響が出ている。来店客数はそれほど落ちていないが買上点数が減っている (スーパー)」などの回答がみられた。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2018年10-12月	2018年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.6	0.3	0.4	1.0
百貨店・スーパー(*2)	1.7	0.4	1.7	3.0
百貨店(*3)	0.8	2.6	0.3	3.3
スーパー(*3)	1.2	0.4	1.8	2.0
コンビニ(*3)	1.8	0.0	2.2	3.2
乗用車(*4)	6.7	11.4	9.6	0.7
(季節調整値)(*4)	1.2	4.2	0.4	6.1



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

・百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

・コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出数(上段は前年同期(月)比(%))

(2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を下回ったものの、分譲が上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を上回っている。

